

一般財団法人まちと人と 第五期事業報告

期間:2025年10月1日~2026年3月31日

【1】第五期の総論

第五期は、法人の事業年度を一般的な「4月開始・翌年3月終了」の区切りに合わせるため、半年間という短い期間となった。しかし、その期間においても学校教育事業と地域教育事業を通じ、高校生が地域や社会と関わりながら学び、段階的に挑戦を重ねられる場を提供してきた。特に、第四期に行ったビジョン・ミッションの再定義や成果目標の設定を踏まえ、事業目標や成果の検証を行いながら着実に推進できたと評価している。

とりわけ地域教育事業においては、高校生自身が挑戦したいテーマを決定し、実際のアクションに至るまでを伴走する新規プログラム「(挑む・企む・楽しむ)ムムム！」を立ち上げ、14人の高校生が地域で継続的に挑戦する環境をつくることができた。これにより、従来から実施している「まきボラ」などによる「挑戦の最初の一步」の後押しに加え、継続的かつ中長期的な挑戦の支援など、より多様なサポートを展開できるようになった。

また、本期は事業の推進と並行して「組織基盤の整備・強化」にも注力した。実施予定事業の棚卸しとリソース配分の見直し、持続可能性に向けた寄付獲得の活動推進や、広報戦略の見直しなどを進めた。また、法人の社会的価値を可視化するインパクトレポートの作成に着手し、定量的成果・定性的成果の可視化に取り組むことで、次期以降に向けた組織の土台づくりを行った。

一方で、KPIの整理、広報・資金調達、事業の妥当性評価およびリソース配分といった課題は依然として残っており、次期以降も事業を推進しながら、これらの課題解決に向けて改善を重ねていく必要がある。

【2】第5期 各事業の報告

学校教育事業		
1	桜坂高校 「桜坂タイム」 授業サポート	<p>○実施概要 石巻市立桜坂高校の総合的な探究の時間「桜坂タイム」の、授業企画案作成及び授業実施と地域コーディネートによるサポート業務。1学年では社会人講話「ミライブラリー」を実施し、地域の大人の「挑戦」を聞くことで興味関心を広げ、2学年からの探究テーマのヒントを得た。2学年では「自分の好き・興味」をテーマに個人探究を進めた。</p> <p>○主な支援活動 ・1学年：社会人講話「ミライブラリー」 86人 事前授業1回／本番・事後授業1回 ・2学年：個人探究支援 115人 全7回14コマ</p> <p>○担当者評価（成果と課題、今後に向けての展望） 今年度は大幅なカリキュラムの変更はなかったものの、細かな点で昨年度の課題をクリアする解決策を教員と相談しながら進め、よりブラッシュアップした授業設計となった。 担当教員からは、例年よりも「自分の好き・興味」に基づいたテーマが多い・自分ごととして楽しんで探究している生徒の割合が増えた・自分の興味に基づいたテーマを通して誰かのためにアクションをするという当初の目標に対し、今年度は手応えを感じているという声が上がっている。 ただ、夏休み後に地域の事業所に訪問インタビューを行うことを「必須」にしなかったため、コーディネーターとしての大きな役割である地域とつなぐ活動がやや少なくなった。また、外に出て情報収集をしたり専門家から知識を共有してもらった経験は、調べ学習ではないテーマの深掘りをするのができたり、人とのコミュニケーションの取り方を実践的に学ぶことにつながるため、マストではない今年度はやや成長の機会が少ない印象があった。 来年度からは、「生徒にどんなスキルを得て欲しいのか」を明確にし、そのためのカリキュラムを作成する。そのため、来年度に向けた目標設定や理想の生徒像について、先生方と話し合う場の設計を企画している。</p>
2	石巻西高校 総合的な探究の時間 授業サポート	<p>○概要 石巻西高校の総合的な探究の時間の授業サポート。1学年では「高校生のための いしのまき探究図鑑」を活用しながら、地域や企業・団体について知り、街ライブラリー・街ミッションにつなげる授業を実施した。2・3学年では、街クエストやワイワーク等の実施先相談、事前事後の生徒フォローを中心に支援した。</p> <p>○主な支援活動 ・1学年：コミュニケーショントレーニング 1回 ：街ライブラリー 30事業所参加 1回 ：街ミッション 38事業所参加 3日間 ・2・3学年：街クエスト、ワイワーク等の実施先相談、地域事業所の紹介、発表会等への参加調整</p> <p>○担当者評価（成果と課題、今後に向けての展望） 今年度は生徒の興味関心と地域とのコーディネートに重きを置いて取り組んだ。参加協力を希望する事業所は増えており、生徒の探究フィールドは広がっている。一方で生徒は、自分の興味関心は答えられるものの、地域にはあまり目を向けられていない。今後は自身の興味関心と地域のつながりを見つけるサポートを深めることで、より一層生徒の学びや成長実感を高めたい。 地域の事業所においては、継続的な関わりを望んでおり、特に地域貢献、若者視点の活用、事業所間のつながりづくり等に関して、本事業への参加意欲を示している。地域連携協働委員会の中でさらに具体的な声を集め、地域とともに若者を育む体制づくりに取り組みたい。</p>

3	石巻高校 総合的な探究の時間 授業サポート	<p>○概要 石巻高校の総合的な探究の時間の授業サポート。宮城県教育委員会による「進学拠点校改革推進事業」の指定校に石巻高校が選ばれ、その予算にて「地域コーディネーター」の委託事業者として「地域協働による探究活動」をサポートした。</p> <p>○主な支援活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学年：グループ探究活動支援、夏休み課外フィールドワークサポート、探究授業プログラム作成支援 ・2学年：個人探究支援（個別相談対応） ・実施人数、実施回数：1学年 188人 22回 <p>○担当者評価（成果と課題、今後に向けての展望） 今年度は地域とのコーディネートや、地域での活動に繋がる振り返りの質の向上を中心に取り組んだ。探究図鑑の活用についてのレクチャー、授業時間でのフィールドワーク先の個別相談、地域の方を招いた授業のコーディネート等を行ったことで、昨年よりも多く、継続的な地域との関わりを生み出すことができた。また授業の中で振り返りの機会を複数設けることができた。発表会など校内での実施体制が整ってきた部分もあるが、日常の授業の実施体制整備や学校と地域事業所の関係構築などは課題が残った。進学拠点校改革推進事業が今期で終了するため地域コーディネーターの委託は終了となるが、地域教育事業での広報協力などの関係作りは継続していきたい。</p>
4	社会人との対話による キャリア発達支援事業 (ミライブラリー)	<p>○概要 中高生が地元地域で働く若手社会人の先輩と対話することで、「生きること」や「働くこと」、「地元地域」について考える機会をつくる事業。高校生への事前授業や振り返り、参加する社会人向けに事前研修も行った。</p> <p>○実施校 宮城県蔵王高等学校 2年 34人 社会人6人 宮城県大河原産業高等学校 2年 227人 社会人25人</p> <p>○主な支援活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人事前研修：大河原地方振興事務所会議室にて2回実施 ・蔵王高校：2月6日午前に実施 ・大河原産業高校：3月9日午前に実施 <p>○担当者評価（成果と課題、今後に向けての展望） 質の高い対話プログラムにより、生徒が多様な「生き方」に触れ、自己理解を深めている様子が見られた。今後に向けては、本事業を次年度以降も継続させるため、新たな枠組みによる事業継続の提案書および見積書を提出済みである。次年度以降も本事業のカウンターパートである大河原地方振興事務所と連携し、地域産業を支える次世代人材の育成に向けた安定的な運営基盤の確立を進めていきたい。</p>

5	<p>専門教育次世代人財育成プロジェクトサポート事業</p>	<p>○概要 専門高校等の特色や強みを踏まえて、各校の学びを融合した新たな視点から地域の課題に応じることで、分野や領域の壁を越えて人や組織の協働を創出し、地域産業の振興を推進できる人材を育成することを目的として、高校教育課キャリア教育班が実施している「専門教育次世代人財育成プロジェクト」において、「地域コーディネーター」として学校間連携による学習活動の支援及び学校や生徒、地域関係機関との連絡調整等を行った。</p> <p>○参加者 宮城県水産高等学校、宮城県石巻北高等学校、宮城県石巻商業高等学校、宮城県石巻工業高校の有志生徒 30人</p> <p>○主な支援活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒委員会の進行、ワークシート作成 ・中間発表資料の添削 ・地域企業との連絡調整 <p>○担当者評価（成果と課題、今後に向けての展望） 令和7年度はリバースエンジニアリングの手法を用いて企業や製品について分析するチームと、商品開発に向けてアイデアを検討するチームに分かれた。昨年度の反省から、今年度は各校の負担が少ない形での実施を検討し進めてきた。結果、地域産業への理解は深まったものの、各校の強みを十分に生かしたプロジェクトには至らなかった。また、次年度で県の事業としての実施が終了することから、次年度は自走化に向けた体制作りや目標の明確化が課題となる。</p>
---	--------------------------------	---

地域教育事業		
1	石巻で自分の好きを見つけるボランティア「まきボラ」	<p>○概要 高校生・大学生が、自ら興味を持った地域の団体や企業を選び、授業外での自発的なボランティア参加を通して「地域の魅力」と「自分の好き」を見つけるプログラム。毎年夏・秋・春に開催する長期休みまきボラと、年間を通してイベント等のボランティアを募集する単発まきボラの企画・マッチングを実施した。</p> <p>○参加人数、まきボラ実施プログラム数 参加人数：実人数129人・のべ人数172人（高校生・大学生） 参加事業所数：32事業所 ボランティア数：51件（夏：18件・秋：8件・春：23件・単発：2件）</p> <p>○担当者評価（成果と課題、今後に向けての展望） 今年度は長期休みまきボラのほか、単発まきボラの依頼が多く、秋のまきボラを臨時で開催した。地域の中でまきボラの認知が進み、高校生と地域をつなぐきっかけになっている。 また、参加前後の目標設定・振り返りのシートやワーク内容、サポートするインターン生の研修内容をブラッシュアップし、より地域で挑戦実感をえられる活動に昇華した。結果、昨年度は向上が見られなかった「挑戦実感」のアンケートで10pt中8.8ptと大きな変化が見られた。 アンケートでは、「地域の活動は少し堅いイメージがあったが、実際に参加してみると、多くの人が温かく関わり合っていて、地域は人と人とのつながりで支えられていると感じました。」といった、地域で挑戦することへのイメージの変化が確認された。また、「やったことのない活動に挑戦した」といった、普段の自分から一歩踏み出す行動変容の声も多く見られた。これらは、インターン生の教育や活動前後のプログラムを再構築したこと、また事業所数を増加させ活動のバリエーションを広げたことによる効果であると考えられる。 一方で、事業所数の増加に伴い、事業運営がスタッフの稼働工数に大きく依存する「労働集約型」の構造となっていることが課題としてあげられる。今後はスタッフの工数を大きく増やすことなく成果を最大化できるよう自団体に閉じない取り組みが必要である。そこで、2026年度からは受け入れ事業所と協力しながらまきボラを作り上げるため、事業所が集まりまきボラを議論する「まきボラ超！会議」を企画・実施している。</p>
2	高校生の職業体験型ボランティア「DIVE！」	<p>○概要 主に夏休み期間を活用して、高校生が石巻地域の事業所の「リアルな課題」に向き合い、実際の現場を体験しながら事業所からのミッション達成に挑戦する「職業体験型ボランティア」。今年はプログラムを『アイデアDIVE！』と『アクションDIVE！』の2フェーズに分けて実施。広報やイベント企画、パンフレット編集等、高校生が普段できない貴重な社会経験を経て、主体性の獲得やキャリア形成、地域の理解につなげることを目的としている。</p> <p>○実施対象者、受け入れ企業数 <ul style="list-style-type: none"> ・高校生：9名（応募：11名）※1事業所につき、2～3名のチームで活動 ・受け入れ事業所：4社 ・全体成果報告会参加者：38名（高校生・受け入れ事業所・運営スタッフ含む） </p> <p>○担当者評価（成果と課題、今後に向けての展望） 広報やイベントの実施、新しい取組のアイデア等、事業所が普段の業務をこなす中では中々推進しにくいようなことを、高校生の柔軟な発想と行動力によって実現できたことは大きな成果だと考える。その証として事後アンケートでは、受け入れ事業所全員が「想像以上の成果が得られた」との回答があった。 また、高校生全員が「今回の経験は今後の人生において役に立つ」と回答しており、単なる職場体験やボランティアを越える有意義なプログラムとなった。さらには、「地域への興味関心」や「地域での活動意欲」の数値が10pt中約1ptも上がっており、高校生と地域をつなぐプログラムとしても効果的であることが分かった。 今後の展望としては、「まきボラ」事業との統合を前提に、今回のような高校生と事業所の関係性をより継続的に生み出せるような仕組みを考えていきたい。また、活動の日程がどうしても長期となるため、参加のハードルや活動時のモチベーション低下等の懸念があるため、引き続き工夫を続け、より高校生にとって参加しやすく、主体的な関わりを引き出せるようなプログラムに改善していきたい。</p>

3	<p>放課後探究 サポート活動 「たくらむ・いどむ・たのしむ ムムム！」</p>	<p>○概要 中高生が自らの「やってみたい」をもとに地域へ飛び出し、挑戦を行うプログラム「ムムム！」を実施した。単なる体験やお手伝いにとどまらず、地域の人や魅力との出会いを通じて、行動力や創造性を育み、自分自身の可能性を広げることを目指した。また、若者世代と地域の大人が、日々の疑問や気になることをテーマに語り合う対話の場づくりを行った。</p> <p>○実施頻度、人数 ・プレ企画 のべ参加人数：35人 ・1期生（高校生）：14名 ・たくらミーティング：11回実施、のべ96人参加 ・その他 個別伴走、フィールドワーク等の実施</p> <p>○担当者評価（成果と課題、今後に向けての展望） 本プログラムでは、高校生の挑戦意欲を高め、自己実現を後押しした。事後アンケートでは「挑戦実感」が10pt中平均8.7ptという高い評価を得たほか、参加者の半数以上が今後も活動を継続したいと回答している。また、参加者間の交流においても、高い評価が得られた。「他の参加者を仲間と感じたか」という設問では、10pt中平均9ptであった。「応援し合えた」「周りの姿を見て自分も頑張ろうと思えた」といった記述も見られ、高校生が相互に刺激し合いながら活動する環境を作ることができたといえる。 地域との関わりについては、元々地域への関心が高かった学生もいたが、「初めて地域の人と関わった」「知らない場所がまだまだあると思った」といった感想も寄せられており、地域との接点が少ない高校生に対しても、新たな気づきや関心のきっかけを提供できたと考えられる。 事業運営においては、参加者への伴走体制がマンパワーに依存することや、参加者情報の共有システムが不十分であることが判明した。今後は、より多くの地域住民を巻き込み、地域全体で高校生の挑戦を応援できる仕組みを構築することを目指していきたい。</p>
4	<p>放課後たき火 ・Candle Night 今夜だけは</p>	<p>○概要 「被災者」と「多様な世代の未被災者」が対話する場を創出し、地域の復興の歩みや未来に向けた思いを共有するプログラムを実施。互いの理解と共感を深め、人と人、人とまちのつながりづくりを行うことで、「被災者の心の復興」と「共に支え合う地域づくり」を行った。</p> <p>○実施頻度、人数 ・放課後たき火：全4回／延べ80人 - 11月27日：17人／ISHINOMAKI HOP WORKS TAPROOM - 12月22日：16人／かわまちオープンパーク - 1月21日：23人／ISHINOMAKI HOP WORKS TAPROOM - 2月4日：24人／ISHINOMAKI HOP WORKS TAPROOM ・CandleNight今夜だけは：11月14日／石巻西高等学校 講堂 高校生480人、教職員・地域住民40人 ・事業全体：630人</p> <p>○担当者評価（成果と課題、今後に向けての展望） 本事業を通じ、地域の若者が多様な大人と自然に繋がり、安心して語り合える「居場所」の創出ができたと考えられる。『放課後たき火』では高校生から70代が参加し、世代を超えた交流が多数生まれた。街中のオープンな場での開催により地域住民や若者支援を行う他団体との繋がりも創出され、若者が地域社会への愛着や安心感を深める重要な機会となった。 『Candle Night 今夜だけは』では、被災経験を持つアーティストを招き、若者とともに震災伝承と未来への希望を共有した。幼少期に被災し当時の記憶が少ない高校生たちが自らの歩みを振り返り、「次は自分たちが伝えていきたい」と主体的な思いを抱くなど、若者の心の復興と次世代への継承において大きな成果を上げた。今後は今年度の実施フォーマットを基に、若者の活動・交流の場を絶やさぬよう、持続可能な運営方法を模索していきたい。</p>
5	<p>「高校生のための いしのまき探究図鑑」 を活用した キャリア教育授業</p>	<p>○概要 当法人が独自に作成した、石巻圏域の企業・団体の情報ツール「高校生のためのいしのまき探究図鑑」を活用し、高校生が自分の興味関心に基づいて、地域について知り、アクセスしやすくなる環境を整えた。第五期はWEB版を更新・活用し、検索性や利便性を高めた。</p> <p>○授業実施校数、掲載事業所数 ・WEB版掲載数：93社 ・活用プログラム提供：石巻西高校等での総合的な探究の授業サポートを実施。</p>

石巻市地域おこし協力隊受入支援業務

1	石巻市地域おこし協力隊サポート事業	<p>○概要 石巻市外の人材を石巻市地域おこし協力隊として受け入れ、円滑に地域おこし協力隊として活動できるよう伴走支援を行うほか、隊員の起業又は事業継承に有益となる研修等を実施し、退任後の定住・定着を図ることを目的として、石巻市地域おこし協力隊受入支援業務を行った。</p> <p>主な業務内容としては、受入事業者の募集支援、隊員の募集支援、地域おこし協力隊員及び受入事業者のサポート、隊員の活動支援、ネットワークの構築、研修の実施及び参加促進、情報発信などを行った。石巻市の担当課である復興企画部SDGs移住定住推進課と連携し、体制の構築や支援内容などについて取り組んだ。</p> <p>○実施内容 サポートした地域おこし協力隊員等：16名 ※インターン中またはインターン予定者、辞退者を含む</p> <p>○担当者評価（成果と課題、今後に向けての展望） 募集から日々の伴走支援、研修まで多岐にわたるサポートを実施した。オンライン説明会やSNSを活用した広報戦略により4名の着任へとつながり、定期的な面談を通じてきめ細やかな課題解決に努めた。また、全11回の各種研修や定例会により、隊員間のネットワーク構築と活動の具体化を後押しすることができた。また、受入事業者向け研修では、世代間のコミュニケーション課題や、石巻全体での連携体制を構築する必要性が共有された。</p> <p>年度末に実施した隊員アンケートにおいては、隊員の「暮らしへの満足度」や「愛着」は高い反面、「将来へのつながり」には個人差が見られた。今後は、卒隊後を見据えたキャリア支援を一層充実させるとともに、個別の事業者にとどまらない、地域全体を巻き込んだ支援体制の強化を図る。</p>
---	-------------------	--

【3】第5期 組織基盤の整備・強化の取組報告

組織基盤の整備・強化		
取組 1	実施予定事業の整理と改善	<p>○目標 2026年4月以降に実施する事業について、実施の妥当性や法人としてのリソース配分を明確化する。2026年4月以降に実施する事業について、各事業に定性・定量の成果目標を設定し、計画を具体的に打ち出す。</p> <p>○実施内容と成果 内部会議や役員相談会の場などの会議体を通じ、既存事業の棚卸しや次年度事業の検討、組織体制の検討を行い、2026年度4月からの体制や担当者の再配置を実施した。 学校との連携に対して、新たな可能性を探るために新規事業として「Feel度Walk&知図」の実施を決めた。また、「まきボラ」についてより注力・事業発展をさせていくことを決定した。</p>
取組 2	持続可能性確立を目指した、法人の基盤整備計画	<p>○目標 ・助成金依存からの脱却に向け、中長期的な財源戦略を策定する。 ・寄付・会費・自主事業収入の3本柱を明確化し、収入の多様化を進める。 ・第五期において、法人・個人寄付金総額 200万円の獲得を目指す。</p> <p>○実施内容と成果 赤い羽根共同募金の「みやぎチャレンジプロジェクト」を通しての寄付金 120万円とマッチング助成 50万円を獲得した。またマンスリーサポーターの開始(現状メンバー 10人)し、継続寄付を受け取っていく土台づくりを行った。</p>
取組 3	成果目標(ロジックモデル)に基づく、インパクトレポートの作成と活用	<p>○目標 ・第四期で組成されたりサーチチームを中心に、インパクトレポートを完成させる。 ・インパクトレポートにより、成果目標(アウトカム)の達成状況を測定・可視化し、法人内外へ周知する。 ・インパクトレポートの調査・研究結果をもとに、次期の事業計画・資金調達戦略に反映させる。</p> <p>○実施内容と成果 法人の取組や、事業成果を伝えるインパクトレポートを作成。作成したレポートは「みやぎチャレンジプロジェクト」の広報等に活用した。またレポート作成の過程で「地域浸り時間」という、高校生の「地域活動時間の総量」を定量化し、これまで同じ尺度で測るのが難しかった学校教育事業と地域教育事業を同尺度で測ることが出来るようになった。</p>
取組 4	スタッフ・インターンの学びと主体性強化	<p>○目標 スタッフとインターンを対象とした研修・対話プログラムを年 2回以上実施する。 「主体的に参画する組織文化」を醸成し、メンバーが提案・企画を実行できる仕組みを整える。内部満足度調査を実施し、スタッフ・インターンの 8割以上が「成長実感あり」と回答することを目指す。</p> <p>○実施内容と成果 スタッフそれぞれが「学び」を得るために研修や視察に意欲的に参加している様子が伺えたが、事業実施の繁忙期であったこともあり、法人全体としての研修を設けることが出来なかった。「成長実感」については4月に行う年間振り返りの面談にて把握する予定である。</p>
取組 5	広報強化	<p>○目標 ・法人の活動や成果を外部に発信する広報戦略を検討し、計画を立てる。</p> <p>○実施内容と成果 「みやぎチャレンジプロジェクト」期間内において、広報活動にも力を入れて、SNSでの積極発信や、関係者への週1回:計6回のメールマガジン配信を行った。 メディアへのプレスリリースや PR TIMESの投稿も積極的に行った結果、テレビ取材 2件、新聞取材も多数受けることができた。 第六期に向けて広報計画を検討。メルマガの定期配信の常態化により認知拡大を行っていき、企業寄付やマンスリーサポーターの拡大を目指していく。</p> <p>【 広報実績 】 ・プレスリリース数 10件 ・メディア掲載実績 11件</p> <p>※詳細は別紙「第5期広報実績期広報実績」参照</p>

【別紙】第5期広報実績

NO	分類	広報内容	掲載日	掲載先	リンク等
1	プレスリリース	お歳暮イラスト贈呈式	2025年10月10日	PRTIMES、SNS	2025.9_お歳暮_プレスリリース.pdf
2	プレスリリース	ムムム！開始	2025年10月 ～2026年3月	PRTIMES、SNS	2025.9_ムムム！募集開始_プレスリリース.pptx.pdf
3	プレスリリース	お歳暮発売	2025年10月10日	PRTIMES、SNS	【宮城県石巻市】高校生がデザインした「お歳暮セット」発売！
4	メディア掲載・放送	お歳暮発売・贈呈式実施	2025年10月15日	石巻日日新聞【新聞】	R71015【新聞記事掲載】お歳暮ビールセット 石巻日日新聞.pdf
5	メディア掲載・放送	お歳暮発売・贈呈式実施	2025年10月21日	石巻かほく【新聞】	お歳暮をデザイン 石巻市桜坂高×石巻高地元の自然を表現
6	メディア掲載・放送	お歳暮発売	2025年11月4日	ミヤギテレビ【TV】	https://youtu.be/dx7iRi6B84R71029 【広報記事】OH!バンドス MMTミヤギテレビ取材の様子.pptx
7	プレスリリース	「CandleNight今夜だけは」 @石巻西高	2025年11月14日	PRTIMES、SNS	2025.11_石巻西校 CandleNight今夜だけは_プレスリリース.pdf https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000018_000164749.html
8	HPお知らせ	2025年活動報告会&交流会参加者募集	2025年12月07日		2一般財団法人まちと人と活動報告会&交流会
9	プレスリリース	2025年活動報告会&交流会	2025年12月7日	PRTIMES、SNS	11/19投げ込み
10	HPお知らせ	みやぎチャレンジプロジェクト開始のお知らせ	2025年12月10日	公式HP	みやぎチャレンジプロジェクトに挑戦しています！
11	HPお知らせ	2025年活動報告会&交流会実施	2025年12月7日	公式HP	まちと人と2025活動報告会&交流会を開催しました！
12	HPお知らせ	READYFOR開始	2025年12月9日	公式HP	【ご寄付のお願い】READYFORにて継続寄付を開始しました
13	プレスリリース	市長懇談会開催	2025年12月26日	PRTIMES、SNS	市長と若者が『これから関わり続けたいまち』を考える懇談会を開催
14	メディア掲載・放送	地域同期研修参加者として野内取材	2026年1月7日	読売新聞【新聞】	https://news.yahoo.co.jp/articles/bea815f286636f8c32e2aa7f2d2e8a88b621b513
15	メディア掲載・放送	石巻市長と高校生の懇談会	2026年1月20日	NHK【TV】	https://news.web.nhk/newsweb/na/nb-6000034896
16	メディア掲載・放送	石巻市長と高校生の懇談会	2026年1月22日	仙台放送【TV】	https://news.yahoo.co.jp/articles/43e551b530c41c7c0318072265f9f2230791f70b
17	メディア掲載・放送	石巻市長と高校生の懇談会	2026年1月26日	ラジオ石巻【ラジオ】	
18	メディア掲載・放送	石巻市長と高校生の懇談会	2026年1月19日	石巻日日新聞【新聞】	
19	メディア掲載・放送	石巻市長と高校生の懇談会	2026年1月19日	石巻かほく【新聞】	
20	メディア掲載・放送	石巻市長と高校生の懇談会	2026年1月19日	読売新聞【新聞】	
21	プレスリリース	高校教員×企業情報交換会開催	2026年1月26日	PRTIMES、SNS	高校教員×企業の対話の場を開催！
22	プレスリリース	READYFOR開始	2026年2月3日	PRTIMES、SNS	次の10年を見据えて、若者の挑戦を応援するサポーター募集を開始！
23	プレスリリース	まきボラ2026春開始	2026年2月20日	PRTIMES、SNS	自分の“好き”を探究する「まきボラ」、2026年春の活動スタート！
24	メディア掲載・放送	まきボラ2026春	2026年3月	石巻日日新聞【新聞】	自分の“好き”を探究する「まきボラ」、2026年春の活動スタート！